

2011年03月11日

バトウルジー オユンダリ

私は物心かっく前から祖父母の家で育ちました。2009年、九才のころ仙台に留学していった両親に初めて会うために日本へ来ました。

そして、その三日後には地元の小学校に入学しました。クラスメートが私のためにいろいろ手伝ってくれましたが、最初は感謝の気持ちで日本語がつかえなかったことかできませんでした。

でもかんだん日本語も上手になり、友達もできて学校生活になれてきました。しかし一緒に暮らし始めて一年半もたっているのに両親にはなかなかなれませんでした。祖父母

に会いたいと言っていてないたり、反発ばかりしていました。「あの日」まで私はパパとママの私への愛情にまったく気づいていませんでした。

2011年03月11日、私は学校が終わってから友達の家でいつものように遊んでいました。すると急にものすごいゆれを感じました。

そうです、東日本大震災が起こったのです。
あの怖さは忘れることができません。交通機
関が全部止まるとして、たの両親は三時間
も歩いて私をむかえに来てくれました。母が
私をだきしめてくれた時、私は初めて両親の
私への愛情を理解しました。
地震でガスや電気などが止まっていた
が翌日にはスーパーの店員さんがみんなちや
んと仕事をしていたり、近所の人達が自分達
で作ったおにぎりを無料で他の人々に配り、た
りしていました。こんな状況なのに、みんな
協力しながら頑張っていたことに感動しまし
た。私はこの時、日本、日本人、日本の文化
などが全部大好きになり、「将来ぜひ、たい日
本に留学したいと願うようになりまし
た。2011年03月11日、これにと、てもわすれら
れない特別な日に私は二つの大切なことを知
りました。私は両親を祖父母のように愛する
ようになりまし。そして将来の目標をみつ
けました。